

第4段階 ガリラヤの大宣教

E. 十二使徒の任命と「山上の教え」

1. イエスは十二使徒を任命する

ディリージーザスニュース #067

基本テキスト: MK 3.13-19 (並行テキスト: ルカ6.12-16)

13ある日のこと、イエスは祈るために山へ行き、夜通し祈っていた。そして夜が明けると、^Mイエスは山に登り、^L弟子たち、すなわち^M御心のままに選んだ者たちを呼ぶと、彼らはみもとに来た。

14 そして、その中から十二人を選び、そして十二人を任命した 彼らが彼と共にいて、彼が彼らを宣教に遣わし、15 権威を持つようにするためであった。悪霊を追い出すため。

16 の名前 彼が任命した十二人は は これら： シモンはペテロと名付けられ、17 ゼベダイとその兄弟ヨハネの子ヤコブ（彼らには「雷の子」を意味するボアネルゲスという名前が与えられた）

18 アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、タダイ、「熱心党員」と呼ばれたシモンは 19 そして彼を裏切ったイスカリオテのユダは、^L裏切り者。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルーク =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書の書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤の斜体で表記されています**。旧約聖書からの引用は大文字で表記されています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤの山で
タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯	第4段階: ガリラヤの大宣教
	E. 十二使徒の任命と「山上の教え」
タイトル	1. イエスは12人の使徒を任命する

コメント：

イエスが十二使徒を任命する前に、すでに宣教活動を始めて約16か月が経っていたことに気づいていない人が多い。これらの男性たちは、イエスに従っていた大勢の弟子たちの中から選ばれ、その中には女性もかなり含まれていた。

第4段階 ガリラヤの大宣教

上記のマルコ 3.13-19 とルカ 6.12-16 の混合テキストに加えて、マタイ 10.2-4 と使徒行伝 1.13 には 12 人の使徒全員がリストされています。リストの順序は異なりますが、ペテロは常に最初です。また、マルコとマタイ（マタイ 10.3）はユダ（イスカリオテではない）を「タダイ」という名前で呼んでいることも明確にしておく必要があります。ルカは彼を「ヤコブの子ユダ」と呼んでいます。これは、シモンが「ペテロ」（およびケファ）とも呼ばれ、「サウロがパウロ」になつたのと似ています。名前の違いは 2 人の異なる人物を示すものではなく、記述間の矛盾ではありません。

イエスは、ヨハネ 15:27 で、十二使徒に加わるための基準の 1 つについて語っています。「あなたたちも、私について証言しなければなりません。あなたは初めから私と共にいたのですから。」これは、イエスが十二使徒の中核となる指導者チームに注目した理由の 1 つでもありました。「イエスは、十二人を任命して、自分と共にいるようにされたのです。」マルコ 3:14。これらの男性は、ユダヤでのイエスの宣教活動の初期の頃からイエスと関係があり、そのため目撃者としてイエスの宣教活動全体を証言することができました。

使徒たち自身も、イエスが宣教活動のすべてを目撃した人々を選ぶ基準をよく知っていました。イスカリオテのユダが自殺し、残りの 11 人の使徒が彼の代わりを決める必要があったとき、ペテロはこう言いました。

「ですから、主イエスが私たちの間に出入りしておられた間、ヨハネが洗礼を受けた時からイエスが私たちから引き上げられた時まで、私たちと共にいた人々の中から、一人を選ぶ必要があります。この中の一人が、私たちと共にイエスの復活の証人となるはずです。」使徒行伝 1.21。

使徒たちは、イエスの宣教活動の最初から最後まで、特にイエスの死と復活に重点を置いた第一の目撃者としてイエスに選ばれ、その証言を他の忠実な弟子たちに伝え、イエスが始めた弟子作りの過程を通して「すべての国々」にその証言が広められるようにしました。

今日、私たちが四福音書を手にしているのは、これらの人々（イスカリオテのユダを除く）がイエスの全宣教活動の証言という特別な宣教活動の忠実な管理者であったからです。彼らには、説教、治癒、奇跡、悪霊を追い出す識別力といった霊的な賜物、そして言葉と行いにおいてイエスを代表する権威が与えられました。これらの「しるしの賜物」は、イエスが信頼できる証人である証拠として自身の「行い」を指摘したのと同様に、彼らが行った証言において神に忠実であったという証拠を示すために特に必要でした。

「この救いは、主ご自身によって最初に宣べ伝えられ、それを聞いた人々によって私たちに確証されました。神はまた、しるし、不思議、さまざまな奇跡、そして御心のままに与えられる聖霊の賜物によって、このことを証しえました。」ヘブライ人への手紙 2.3

イエスは、自分を代表し、他の人に教えを伝え、その教えを次の世代に忠実に伝えるよう任命した人々に対して重要な計画を持っていました。使徒たちは、イエスが昇天した後の最初の 6 年間、エルサレムの神殿で毎日イエスの福音を精力的に宣べ伝えました。彼らは、福音書の「口伝」、つまり口頭版を創り上げました。これは後に、今日私たちが手にしている 4 つの福音書として書き留められました。「すべての國の人々を弟子にする」というイエスの計画のすべては、これらの人々の忠実さと効果にかかっていました。

これを考慮すると、ルカが、イエスが十二使徒を選ぶ前に一晩中祈りを捧げたと語っているのも不思議ではありません。当時、イエスは群衆に付き従われ、昼間に長時間祈る場所を見つけることができませんでした。長時間（10 ~ 12 時間）祈る唯一の方法は、夜通し祈ることでした。イエスは、早朝に数時間祈るという

第4段階 ガリラヤの大宣教

毎日の個人的な祈りの規律を守り続けましたが、そのような重大な決断に関して父から求めていた導きを得るには十分ではありませんでした。ここで、イエスにとって祈りがいかに重要であったか、祈りに対するイエスの献身、そして絶え間なく祈るイエスの模範を見てください。

このように、12人の選出はイエスの宣教におけるもう一つの重要な転換点でした。イエスはこれから、12人の訓練にますます多くの時間と注意を向け始めます。その中でも、イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人からなる内輪のグループに特に重点を置きます。同時に、イエスはフルタイムの弟子のより大きなグループの訓練と育成も続け、その中から後に72人の男性を任命して、2人1組で宣教と教育に赴かせます。(これは「後期ユダヤおよびペレオ宣教」の間に起こります。)

パリサイ人の意図は、ユダヤとガリラヤで広く知られるようになりました。ですから主は、天国に戻った後の未来を見据えておられました。そのとき、主のこの世での継続的な奉仕はすべて、聖霊の力によって弟子たちを通して行われるでしょう。主はその日のために弟子たちを準備しておられました。その第一歩は、主の核となる価値観を「山上の教え」で明らかにすることだったのです。

応用：

イエスが十二使徒を特別な役割と奉仕に任命し、それを達成するために彼らに靈的な賜物を与えたように、イエスはすべての信者にも同じことをします。私たち一人一人が完璧な「主のしもべ」に従っている以上、私たち一人一人が彼のような奉仕者、奉仕者に成長するには必然です。

イエスは私たち一人一人を、イエスの証人として代表し、イエスが私たちに与えてくださった賜物に応じてイエスの名において奉仕するよう個人的に選んでくださっています。例外はありません。

福音書の中でイエスを毎日見る上で重要な点は、イエスがしたように、どのように奉仕するかをイエスから学ぶことです。12人はこのようにして奉仕することを学んだのです。彼らはイエスが毎日一日中奉仕するのを見ていたのです。また、12人が私たちに残したイエスの生涯の忠実な物語を通して、すべての信者がイエスの奉仕を目にし、見ることができるようにしたのもこのためです。

あなたは、自分の主な宣教の模範として、イエスの例を意識的に学んでいますか？

あなたの靈的な賜物は何ですか。神と神の王国に愛をもって仕えるために、あなたはそれをどのように日常的に使っていますか？

の模範のどの側面に適応する必要がありますか。いつ、どのように適応しますか。